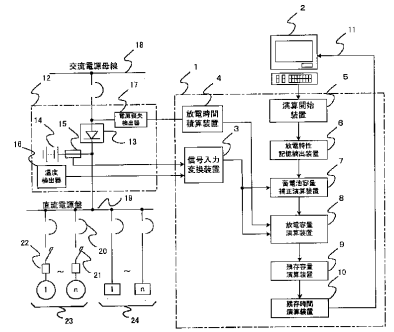


蓄電池性能演算方法

特開 2 0 0 1 - 8 3 2 2 2 (H13.03.30) 平11-263209 (H11.9.17)
 出願人 株式会社日立製作所 (外 1社)
 [発明者 高橋 亮 外 1名]
 G01R 31/36 , H01M 10/48



(57) 【要約】

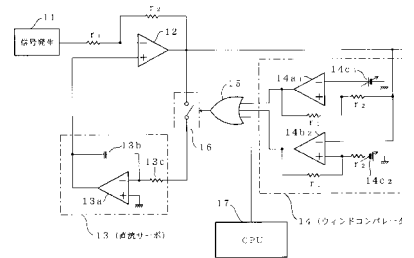
【課題】 入力諸データにより放電容量を演算し、温度補正された蓄電池容量より放電容量を減算し残存容量を求め、放電電流により除算し容量換算時間を求め、蓄電池固有の放電特性より放電可能時間を求める。

【解決手段】 蓄電池の放電開始から任意の時間までの蓄電池放電電流と放電直後の蓄電池温度をサンプリングし、放電容量を放電電流変化及び放電電流変化を生じた時点での容量換算時間を用いて演算し、蓄電池の周囲温度にて演算された蓄電池容量より放電容量を減算し、蓄電池残存容量を算出すると共に、残存容量を演算指令が発せられた時点での放電電流にて除算し、求められた容量換算時間に到達するまでの時間を蓄電池の放電特性より求め、演算開始直前の放電電流が継続した場合の演算開始点以降の放電可能時間を演算することを特徴とする。

(4頁1発明)

直流サーボ制御回路

特開 2 0 0 1 - 8 4 0 4 1 (H13.03.30) 平11-258872 (H11.9.13)
 出願人 双葉電子工業株式会社
 [発明者 長澤 総]
 G05F 1/10 302, H03F 3/34 ,// G08G 1/042



(57) 【要約】

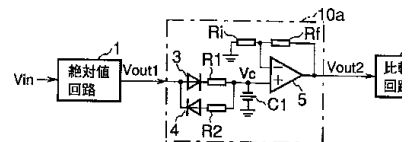
【課題】 直流成分を有する入力信号を増幅したときに出力レベル（オフセットレベル）の変動がないようにする直流サーボ制御回路を提供する。

【解決手段】 1 1は信号発生部で、直流成分を含んでいる信号を増幅するために直流増幅器 1 2 が設けられている。1 4はウィンドウコンパレータであり、1 4は直流増幅器 1 2の出力信号の無信号時の出力レベルを安定にするために設けられている直流サーボ回路である。ウィンドウコンパレータ 1 4によって、出力信号の例えば0レベルより少し離れた信号成分が検出されたときに、スイッチ 1 6によって直流サーボ回路がオープンとなるように制御され、直流サーボがかからないようにする。したがって、直流サーボは無信号時の出力レベルのみで制御され、信号波形によってオフセットレベルが変動しないようにできる。

(6頁4発明)

電力変換装置

特開 2 0 0 1 - 8 4 0 4 2 (H13.03.30) 平11-258934 (H11.9.13)
 出願人 株式会社東芝
 [発明者 目黒 良典]
 G05F 1/10 304



(57) 【要約】

【課題】 本発明は、簡易な構成により、ゲート欠相を検出でき、信頼性の向上を図る。

【解決手段】 本発明は、絶対値回路 1の出力を平滑化するためのコンデンサ C 1, 抵抗器 R 1, R 2, ダイオード 3, 4からなる平滑回路と、平滑回路の出力を増幅して比較回路 2に入力するための増幅回路とを備えた電力変換装置を開示する。ゲート欠相時においては、絶対値回路 1から出力された半サイクル周期毎に低下する出力電圧信号 Vout 1が、平滑回路及び非反転増幅回路により、全周期に亘って後段の比較回路 2の基準レベル aよりも低いレベルの出力電圧信号 Vout 2に変換される。従って、ゲート欠相時には出力電圧の低下が検出される。

(7頁7発明)